

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第114回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

閉塞型睡眠時無呼吸症の病態と治療 對木 悟 先生

公益財団法人神経研究所
研究部 睡眠学研究室

平成30年6月8日(金)18:00~19:00
於B1講義室

閉塞型睡眠時無呼吸症(Obstructive Sleep Apnea; OSA)は、就寝中に上気道閉塞が生じる結果、頻回にわたり呼吸停止が生じる疾患であり、OSAを未治療で放置すると重症化し、循環器疾患罹患リスクが高まることが明らかにされている。またOSAに伴う日中の耐え難い眠気は、労働効率の低下や疾病就業を引き起こし、交通事故や産業事故の発生率を高める。現在、持続陽圧呼吸療法(Continuous Positive Airway Pressure; CPAP)に加え、口腔内装置がOSA治療に用いられ、これらの装置の適切な使用により合併症や事故のリスクは軽減する。近年、OSAの病態には歯科的要因が関係することが次第に明らかとなり、今後の動向が注目されている。

本講演ではOSAの病態や口腔内装置の治療原理について概説し、近年得られた知見を紹介しつつ、OSA医療における歯科医師の役割についても改めて考えてみたい。

連絡先:第114回モデレーター 服部 佳功 (加齢歯科学分野)